

先進地を行く ADVANCED DISTRICT

耕作放棄地解消対策に 取り組んだ豊後大野市へ

建設経済

建設経済常任委員会が11月11日、12日、先進地を視察しました。
レポートを紹介します。

委員長 中島 藤 美
副委員長 菰方 重 義
委員 近藤 純 久
委員 中ノ森 慎 一



耕作放棄地解消に向けて

大木町においても近年耕作放棄地が集落内を中心に増加しつつあるが、早期に対策を講じるべく耕作放棄地対策の先進地である大分県豊後大野市を視察した。

豊後大野市における耕作放棄地の面積は、平成7年は288ha、平成12年は465ha、平成17年は731haと年々増加し、さらに豊後大野市が独自に調査した

結果、平成18年については、市全体の耕作面積6,580haのうち約21%に当たる1,372haが耕作放棄地となっている。

その発生原因は、「高齢化に伴う労働力不足」「農地の受け手がいない」「土地条件が悪く生産性が低い」等が挙げられている。今後もますます過疎化や高齢化に伴う担い手不足によりさらに耕作放棄地の増加が懸念されることであった。

特に未整備である集落内の農地、山間部の畑地域の耕作放棄地化が進んでいるようであった。

「新たな茶産地づくり」耕作放棄地解消対策

視察を行った豊後大野市田口地区は、かつては畑地で養蚕が盛んな地域であったが、養蚕の衰退から新たな作目として近年は機械化を前提とした茶産地づくりが行われている地区である。

当地区は高齢化、過疎化、

担い手不足により農地の荒廃が進んでおり、非管理状態で荒廃が進んでいた。

茶の生産について、新規参入の要望があったため、遊休農地4・0haを市が遊休農地解消総合対策事業により、障害物撤去、作業道の整備等を行い、茶の苗木を新植し産地化を進めた。

利用主体は、集落営農組織である田口茶生産組合である。

本町においても、今後、耕作放棄地の拡大が懸念されるが、認定農業者、集落営農組織への積極的なあつせん、農地保有合理化事業による農地の集約化等を促進することでの拡大を抑えることができるのではないかと思われる。

農産物直売所・農家レストラン訪問

日田市大山町「木の花ガルトン」は、福岡、別府など遠方から昼食や買い物に来た人でにぎわっているようである。多くの農家のおもてなし

料理のあるオーガニック農園（レストラン）、特産品の梅を保存する梅蔵物産館、新鮮で豊富な農産物や山野草を取りそろえた農産物バザー館（農産物直売所）等が整備されている。訪問した当日も多くの客でにぎわっていた。くるるんの2期工事で設置される道の駅・レストラン・農産物直売所等についても同様の多くの客でにぎわい、安定した経営がなされることを望む。



耕作放棄地から茶畑へ